



保健室日誌から

校長 仲川 由佳理

いつの間にか、富士山が冠雪していることに気づき、深まる秋を感じます。登校する子どもたちの服装も少しずつ変わり、防寒対策の頃となりました。

過日行われた運動会では、今年も感染防止対策を講じた開催となりましたが、多くの保護者の方々のご理解とご協力のもと、子どもたちの輝く姿をご覧いただきました。誠にありがとうございました。

さて、中休みや昼休みに校庭で元気に遊ぶ姿や教室内で友達と楽しく会話する姿、掃除の時間は黙々と担当場所を掃除する姿を見ていると、その表情や声に癒される時があります。しかし、先月は自分で転倒したり友達と接触したりして、保健室に向かう子どもが以前より増えていました。状況を確認すると、教室内では机や棚にバランスを崩し自分で打撲したり、友達同士の場合は咄嗟に避けることができず一緒にぶつかったりすることもありました。また、やってみたらどうなるだろうという思いで行動してしまい、結果として怪我に繋がる事もありました。人との距離感に変化が出てきたのだろうか、想像する力（こんなことをしたら、こうなるだろう）が希薄になっているのだろうか、保健室日誌を確認しながら養護教諭や職員と話をしたところです。今まではコロナ禍で十分距離を取って活動していましたが、少しずつ人との距離が近くなってきているのは校内でも見られます。また、室内での過ごし方にも、教師の想定外の行動が見られたりもします。一日の学校生活の中で、自由に心身を使って活動できるように教室での過ごし方や遊び方について子どもたちと共に考え、環境整備に今後も気を付けて、大切なお子さんに痛い思いをさせることのないよう、職員一同取り組んで参ります。

最後に、29日（土）は、本校で地域防災訓練が行われました。何度も委員の方々は事前の打ち合わせを行い、当日に備えていました。多くの方が参加され、地域の皆様の関心の高さを感じると共に、学校としても防災意識をさらに高めていく必要性を体得しました。ありがとうございました。